

第15講 【 蔵象Ⅷ 】 教科書 P.47～50

『 三焦 』

[別称] 決瀆の官 『 素問 』

[位置] 背の第13椎に付く

[定義] 三焦とは特定の器官・臓腑を指すものではなく、水穀の消化・吸収、気血津液の代謝とその促進一連の機能を指すものである。
また“上焦・中焦・下焦”の総称。

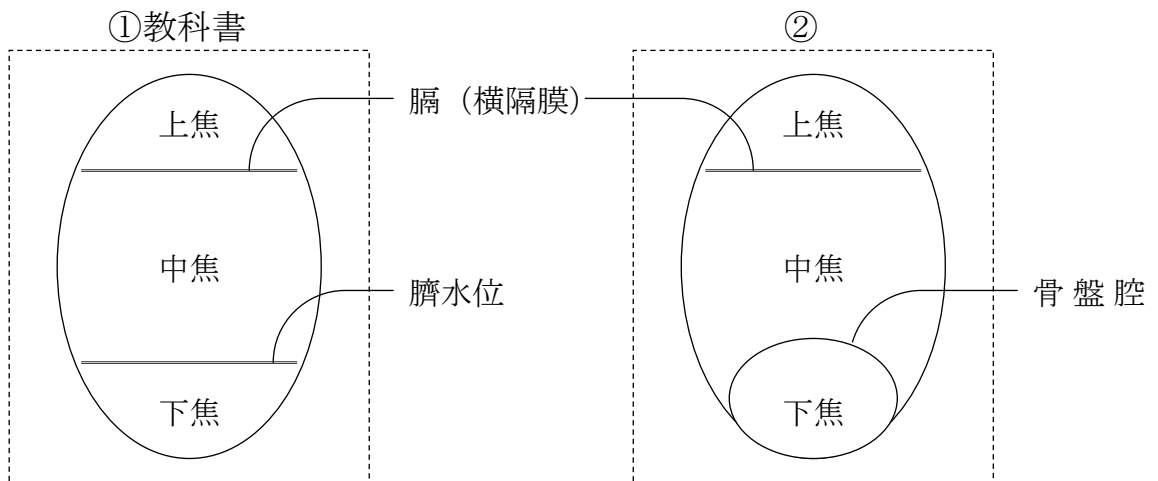
[特徴] 「有名にして無形」：名称はあるが具体的に形はない。

「一腔の大腑」：五臓六腑を納める最大の腔。

[生理機能]

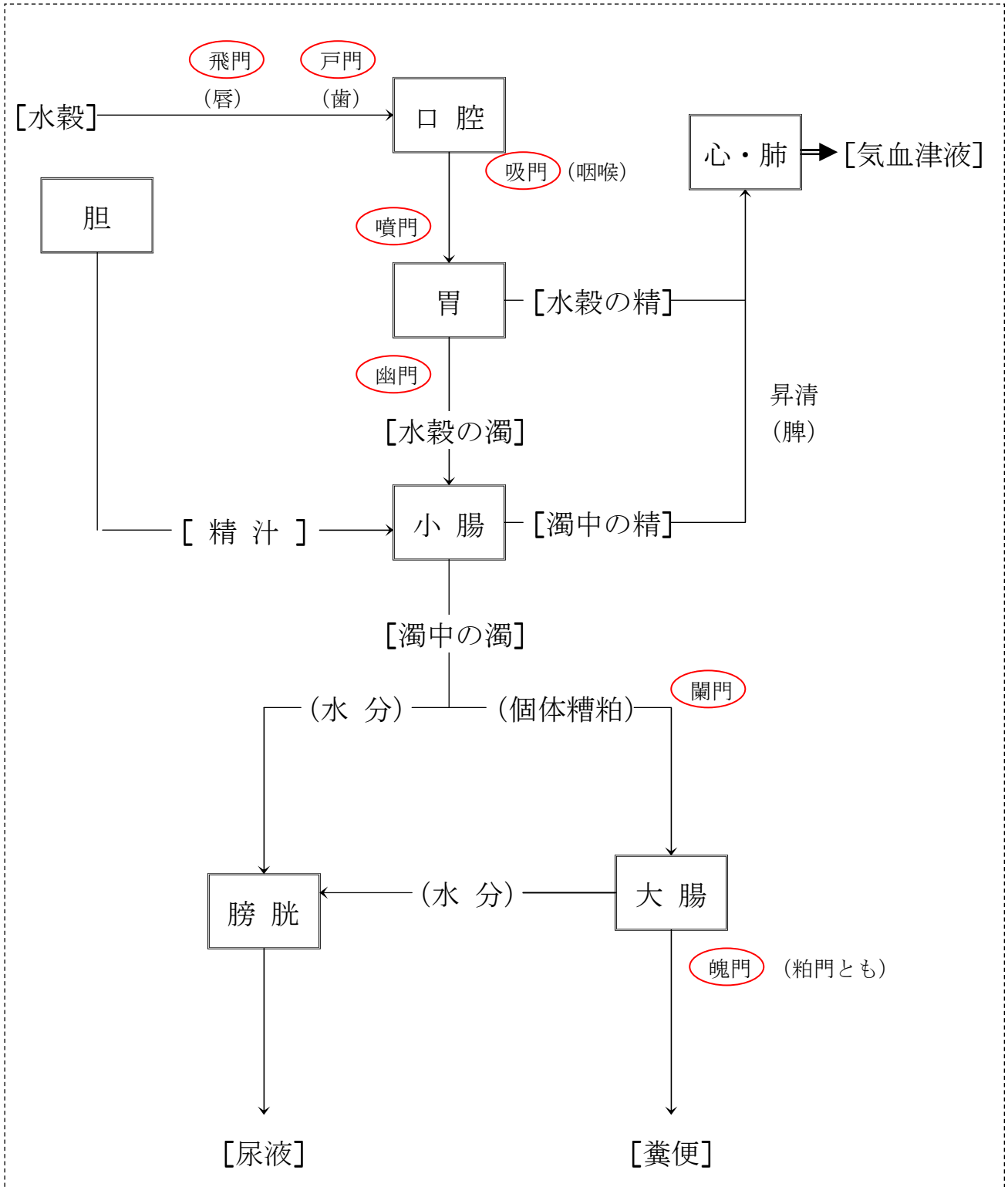
1. 気血津液の調整
2. 体温調節
3. 輸瀉作用：水穀の運輸と排泄

[分断] 代表的な三焦の分断方法



- 《上焦の働き》 心・肺 : 気の循環や体表の栄養・体温調節
- 《中焦の働き》 脾・胃 : 水穀の消化・吸収
- 《下焦の働き》 腎・小腸・大腸・膀胱 : 水穀の消化・吸収・排泄

『 水穀の代謝 』



【 奇恒の府 】

：“骨・髓・脳・脈・胆・女子胞”の総称。

{ 奇：同じでない・異なる
 恒：常・一般の } ⇒ 一般の腑(六腑)と異なる腑

[共通項目] { 属性：陰 (五臓と同じ)
 構成：中空性器官 (六腑と同じ)
 機能：精気を蔵す (五臓と同じ)

[五行属性] { 骨 — 水 ; 髓 — 無し
 脳 — 無し ; 脈 — 火
 胆 — 木 ; 女子胞 — 無し

* 骨・髓・脳・脈は教科書 p.49 参照、胆は六腑を参照

『 女子胞 』（胞宮）

[特徴]

奇恒の府は「蔵」の作用を持つが女子胞には「蔵」と「瀉」の作用がある。

[生理機能]

1. 月経を主る
2. 胞胎（妊娠）を主る

* 詳しい内容は「月経の形成機序」で紹介する。

{ 「蔵」の表現：月経後～月経前；妊娠期
 「瀉」の表現：月経期；分娩時